

小学校だより

平成 27 年 7 月 1 日
第 7 号
五條市立西吉野小学校



この命・この出会いを大切に！

7月と言えば七夕。夜空に流れる天の川をはさんで輝く織姫星と彦星を眺めながら、自分たちの命や出会いについて考えてみました。
(全校朝会でのお話から)

○宇宙の中の、銀河系の中の、太陽系の中の、地球の中の・・・

無限に広がる大宇宙、一体宇宙はどこまで広がっているのでしょうか。宇宙には端があるのでしょうか？端があるとしたら、その外側には何があるのでしょうか？と、想像は果てしなく広がっていきませんが、誰もその端を見た人がいませんから真実は永遠に分からないかもしれません。

そこで、逆をたどってみましょう。宇宙の中には数多くの星が集まる銀河というものが無数にあります。その中の一つが銀河系です。その銀河系の一隅に太陽という星があって、その周りを回る惑星たちとともに太陽系を構成しています。水・金・地・火・木・土・天・海という言葉を知っている人もいるでしょう。地球より内側は、太陽に近いと熱すぎて生物は存在しません。逆に、地球より外側は、太陽から遠いため寒すぎてやはり生物は存在しません。偶然にも太陽からちょうどいい距離にある地球だからこそ、水があり、空気があり、私たち生物が生きることができているのです。これだけ広い宇宙の中で、地球という存在は奇跡に近い存在なのです。

さて、その地球上には、200 近くの国があり、約 70 億の人が住んでいます。私たちは、その中の、約 1 億 3 千万人が住む日本の中の、約 2300 万人が住む近畿地方の中の、約 140 万人が住む奈良県の中の、約 3 万 5 千人が住む五條市の中の、約 3500 人が住む西吉野小学校区の中の、71 人の小学生として、今現在ここにいます。しかも、人類が誕生して約 700 万年、現在のよう人の形になって約 20 万年もの長い年月、その命を受け継いで、今現在ここに存在しているのです。

そう考えると、今こうしてここにいる 71 人の命や出会いというものが、いかに尊いものかということが分かるでしょう。そこで、こんな詩をプレゼントしましょう。

宇宙の中の、銀河系の中の、太陽系の中の、地球の中の・・・

大宇宙から見たら、ほんまにちっちゃな命やけど、石器時代を生き抜き、
戦国時代を生き抜き、戦争時代を生き抜き・・・

何百年・何千年、深い愛情とともに受け継がれてきた命や。

せやから、自分を大切にしいや。自分の命を大切にしいや。自分だけでなく
他人の命も大切にしいや。

宇宙の中の、銀河系の中の、太陽系の中の、地球の中の・・・

偶然に偶然が重なって、今この西吉野小学校の教室で一緒にいる。

自分の周りにはみんな大切ななかまや。

せやから、みんな支え合って、みんなの知恵と力を出し合って、ええ学級、
ええ学校にしような。



また、その子どもを通じて出会った保護者同士も大切ななかまです。子育てで悩んだら、相談し合い支え合って、共に子どもたちのよりよい成長を支援していきましょう。